



JAバンクは地域の担い手を応援します



担い手通信

2026
vol.1

出資やリースの利用により、経営に余裕をもたらす
新たな資金調達法を得て事業拡大に着手

昔 から農業が盛んな津市大里東睦合地区で、稲作を中心とした農業生産を行っている「つじ農園」では、近年法人化を果たし、農業生産以外の事業拡大を考えていました。そこで資金調達についてJAに相談したところ、金融機関による融資ではなく、事業の成長を見越した出資の可能性についての提案を受けました。



また、新たな農業機械の導入に際し、購入ではなくリースの利用という提案も合わせて行われました。「修理やメンテナンス、保険の手続きといった、こまごまとした作業を全てリース会社にお任せできることで、本業により注力できるようになりました」と代表者は語ります。



支援内容

出資元としてアグリ社を紹介

事業が多岐にわたる当社に対し、融資とは異なり事業に対する資金使途が明確化されておらず、財務基盤の強化にもつながる「出資」(アグリ社)という新たな資金調達方法を紹介。

農業機械のリースを提案

多様な農業機器を使用している当社に対して、融資枠の確保と保険・メンテナンス等にかかる管理・作業負担が軽減できる「リース」(JA三井リース)を紹介。

JAに相談したことで、自分たちでは知らなかった情報を得たり、ネットワークを広げられ、会社の未来を一緒に考えてくれる心強い仲間が増えました。

成果

- 融資より自由度の高い出資による資金調達で、新たな事業拡大を計画
- 大型農業機械をリースにて借り受け。メンテナンス等を任せることで、農作業時間を確保

出資先やリース会社との交渉については、JAが間に入り調整してもらうことで、スムーズに進めることができました。

